それからは、畑にはジシバリといって、むしってもなかなか消えない草が生えた。田にはビルモ（ヒルムシロ）といって、取っても取ってもなくならない草が生えた。ドスンボとは癪病の事で、わが国にも昔は多かった。

（話者　小針　平）

地藏杉の由来

《志　茂》

志茂日向屋敷の西に、盆栽のような形をした杉の大木がある。樹高二七・四メートル、根廻り九・六メートル、目通り七・三メートルで、町の天然記念物に指定されている。

その昔、聖武天皇十三年、僧行基が奈良の大仏建立の勸進のため、東北地方に下った折、この地に八幡大菩薩を勸請して、地方の護りとした。その時、行基が手植えした杉といわれている。

傍に、八幡山護国寺を建立して、弟子行認を居住させて、国家鎮護の大道場として、衆生滅罪の祈願読経を修めたという。行認を葬った所を行認塚、桜堂といまに地名が残っている。

のちに杉の根元に、地藏尊を祀ったので、地藏杉と呼ばれるようになった。

（「長沼町郷土誌」より）

板木松の由来

《志　茂》

昔、志茂村は神事（現在の農休日）が月六回あって、村中に報せるのに板木（四角な厚い板）を使った。